

# 限界に挑む姿 感じて



日本人で初めてパラリンピック殿堂入りする河合純一さん＝東京都内で

## パラ殿堂入り 舞阪出身の河合純一さん

パラリンピック競泳メダリストで、日本パラリンピアンズ協会長の河合純一さん(西)＝浜松市西区舞阪町出身＝がパラリンピック殿堂入りする。これまでの大会で大きな功績を残した選手、コーチをたたえる殿堂に、日本人が入るのは初めて。リオデジャネイロパラリンピック会期中の九日、現地で開催される表彰式を前に、障害者スポーツへの思いや、リオ大会と四年後の東京大会への期待を聞いた。(聞き手・飯田樹与・写真も)

「パラリンピック殿堂入りが決まった。身が引き締まる思い。六つの大会に出場しメダルを獲得した点や、パラリンピック経験者による「日本パラリンピアンズ協会」を立ち上げるなどしてアスリートの声を具体的な政策や活動に生かすようにしている点を評価したい。たではないか。」

「今後、取り組みたいことは。リオが終わると、二〇二〇年東京大会での注目ポイント。」

「二〇二〇年東京大会では、一八年平昌(韓)国、二二年北京と東アジアでのパラリンピック開催が続く。アジアパラリンピック委員会の委員もしている。それぞれの国に合うように、障害のある人がスポーツを楽しむ環境づくりに微力ではあるが貢献したい。」

「パラリンピックの魅力と、リオ大会での注目ポイントは、「すごい」と思う瞬間に出合えるので、まずはテレビやインターネットで、まずはテレビやインターネットで、人間の限界はどこまでか見えてくる。一方、陸上は空気抵抗を考えて軽量化された車いすや義足などを使う。テクノロジーによって、人間の

かわい・じゅんいち 生まれつき左目の視力が無く、わずかに見えていた右目も15歳で完全に失明した。水泳は5歳から始めた。1992年のバルセロナ大会から2012年のロンドン大会までのパラリンピック6大会に出場し、金メダル5個を含む計21個のメダルを獲得。日本人パラリンピアンで最多数を誇る。舞阪中学校、筑波大付属盲学校高等部を経て、早稲田大教育学部卒。母校の舞阪中学校で社会科の教諭を務めた経験もある。

## 安全安心な社会「大会から学んで」

「大会から学んで」安全安心な社会。多様性の中に「気づき」があるからイノベーション(革新)が起こる。日本、東京は成熟した国家、都市だからこそ、それぞれの価値や存在を認める姿を見せていかなければならない。

「障害者や高齢者の気持ちになつて考え、協力する「心のバリアフリー」が注目されている。」

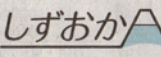
「盲導犬を運んだ視覚障害者がホームから転落して電車でひかれた死亡事故があったから、ホームを歩いていると声を掛けてくれる人が増えた。このように、大会の成否の鍵はできるだけ多くの人に、「どうして良いのか分からないから、何も知らない」と「できることはないか考え、やってみる」との境目を飛び越えてもらうことだ。」

「東京」が世界に示すべき社会像は、

ネットで見たい。



中日新聞東海本社  
浜松市東区東新町45番地  
〒435-8555 電話 053(421)7711



2016年(平成28年)  
9月6日  
(火曜日)

にぼしでタシを取る時代から  
かける時代へ

新製法 にぼしの3倍だし  
かける  
にぼし  
80g  
サカモト  
にぼし

購読申し込みは  
0120-454010  
スマホで便利  
中日新聞+アラス  
chuplus.jp  
CHUNICHI Web  
www.chunichi.co.jp